

緊急指令！ 麻薬Gメン現場に 急行せよ！

麻薬取締官

1 「麻薬犯罪ってそんなに大問題？」と 思っているあなたへ

～悪質・巧妙・増大化する社会の間～

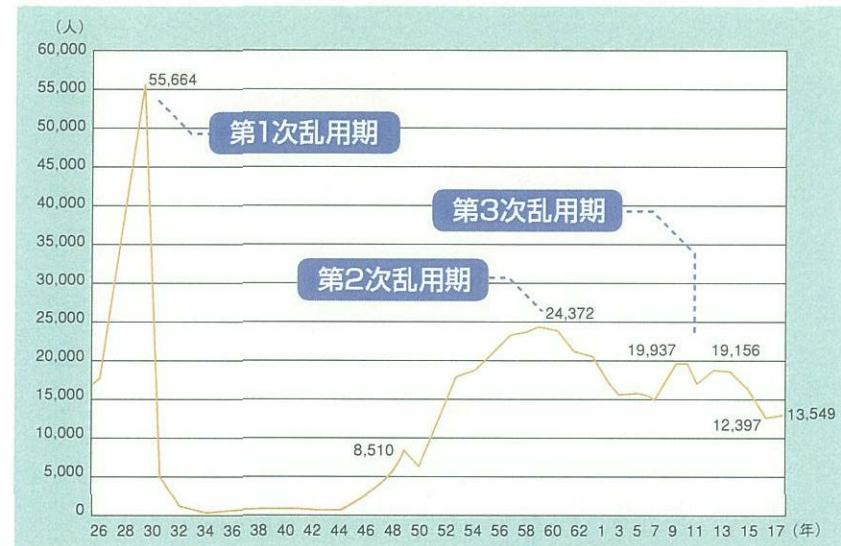
麻薬、覚せい剤などの薬物乱用は、本人の心と体をボロボロにし、家庭や地域を崩壊させるばかりではなく、強盗・殺人・放火などの二次犯罪につながるもので、絶対に許されないものです。といっても皆さんにとってはどこか遠い世界の話でしょうか？

でもそれは大きな間違い。昔は暴力団など限られた世界のものだった薬物犯罪は、今やサラリーマン、学生、主婦といったふつうの人たちに魔の

手を伸ばし、まん延してきているのです。

薬物事犯の検挙者は年間1万6千人に上っており(平成17年)、単純計算で約30分に1人が検挙されている勘定になります。現代は、もはや「薬物乱用時代」といっても過言ではありません。

私たち麻薬取締官は、国民の健康な生活を根底から破壊する薬物乱用を撲滅すべく、日夜戦い続けているのです。

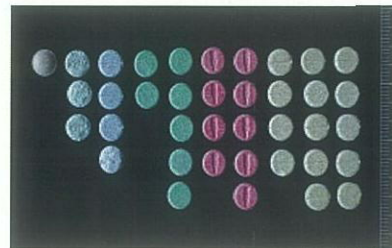


覚せい剤事犯検挙者の年次推移 (昭和26年～平成17年)

多様化する薬物犯罪

薬物犯罪の国際化

我が国で乱用される薬物は、ほとんどが海外から密輸入されたものです。日本は海外の犯罪組織から「薬物のマーケット」と見られており、毎年多くの薬物が密輸入されています。



押収されたMDMA

錠剤型麻薬や大麻の乱用

近年、注射する薬物と比べて抵抗感が少ないことから、飲むだけで効果のある錠剤型麻薬や、煙草のように吸うだけで効果のある大麻の乱用が若者の間で爆発的に増加しています。



押収された覚せい剤

技術の進歩と犯罪の巧妙化

携帯電話やインターネットの普及に伴い、薬物を密売する側がこれらを利用し、携帯電話等で注文を受けた薬物を指定場所まで配達するデリバリー密売やインターネット掲示板で客を捜しての密売をすることが増えてきており、従来の捜査手法では犯罪者の検挙が非常に難しくなっています。



押収された大麻

2 麻薬取締官とは

～薬物取締りの
エキスパート～

雑誌やテレビで「マトリ」「麻薬Gメン」という言葉を見たり聞いたりしたことはありませんか。恐ろしい!とかいったい何をしているのかとあやしげなイメージをお持ちの方もおられると思います。

「マトリ」「麻薬Gメン」と呼ばれているのは厚生労働省に所属する麻薬取締官のことで、薬物犯罪という国民生活を破壊する重大犯罪に特化して、広域かつ専門的に取り締まるプロフェッショナル集団なのです。

麻薬取締官は、犯罪一般を取り扱う警察官と異なり、薬物に関する専門知識と、潜入捜査や「おとり捜査」といった専門的捜査手法、組織犯罪を壊滅するための「麻薬特例法」などを駆使して犯罪者を検挙し、国民を違法な薬物の脅威から守っています。

麻薬取締官の捜査

薬物に関する知識

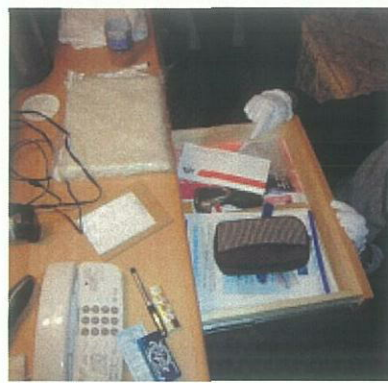
近年の違法ドラッグ(いわゆる脱法ドラッグ)の流行とともに規制対象となる薬物は年々増加しています。麻薬取締官はそれら薬物についても、詳しく把握して捜査にあたっています。

おとり捜査(=譲り受け捜査)

麻薬取締官が、身分を隠して麻薬等を譲り受け、密売人を検挙する捜査手法。麻薬を譲り受けることが法律に明記されて認められている捜査官は麻薬取締官だけです。

麻薬特例法

暴力団や外国人密売組織など薬物犯罪組織を壊滅するために作られた法律で、薬物犯罪で得た資金を没収・追徴することができます。また薬物密売人に対して、最高で無期懲役を科すこともできます。



捜索の現場

3 「麻薬Gメン」の知られざる真実

～君はマトリを知っているか?～

危険な仕事じゃあないの?

暴力団や、薬物の影響下にある被疑者を検挙するのですから、毎日デスクワークで書類を処理するような仕事と比べると、それは確かに危険かもしれません。

そのため、麻薬取締官は、日頃、体系的に構築された独自の逮捕術の研修、けん銃訓練を実施するとともに、防弾防刃チョッキ等を装備し、安全には万全を期しています。

麻薬取締官はどこにいるの?

麻薬取締官は、全国8ブロックの地方厚生局麻薬取締部に勤務しています。このほか沖縄、横浜、神戸、小倉に支所・分室があります。

麻薬取締官の仕事は捜査だけなの?

大部分は捜査ですが、それだけではありません。マスコミ、匿名の投書、一般の方からの通報、内外捜査機関からの情報、逮捕被疑者からの情報、インターネット情報など規制薬物に関する様々な情報の収集、分析も行います。

また、正規に製造される医療用の麻薬は、がん患者の疼痛緩和に非常に有用であり、今や不可欠な医薬品となっています。こうした正規の麻薬が横流れなどしていないかを監視する業務も麻薬取締官の仕事です。

その他にも薬物の鑑定や薬物中毒者対策、国際協力など総合的に薬物乱用対策を行っています。

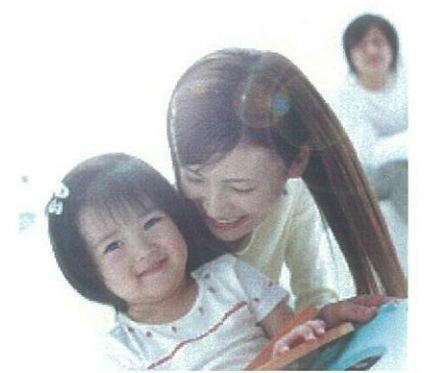


4 薬物乱用のない明るい未来を目指して

～How to be G-men～

現在第一線で活躍する取締官も、最初は公務員を目指す普通の若者でした。職場での経験や勉強を通じて、麻薬取締官になっていったのです。麻薬取締官になるために必要なものは、情熱と意欲と忍耐力です。

社会のためになる仕事に誇りを持って取り組む、そんなアツい人生を送ってみませんか。麻薬取締部はあなたを待っています。



「薬物犯罪を無くしたい」、 その一心で…

関東信越厚生局麻薬取締部 麻薬取締官
K.M.

平成元年、関東信越地区麻薬取締官事務所採用
捜査1課、捜査2課、横浜分室勤務を経て、H7年から北海道地区麻薬取締官事務所（H7～13年）、近畿厚生局麻薬取締部（H13～18年）、平成18年4月から、現職にて麻薬取締捜査に従事。

私が麻薬取締部に入ったのは、平成元年のことでした。当時の、日本はバブルと呼ばれる時代に好景気に沸いていましたが、繁栄に酔う東京の繁華街のすぐ裏の現場で、麻薬、覚せい剤、大麻の現物と、中毒に苦しむ乱用者の姿を初めて目の当たりにした時には、日本社会の光と影の落差の大きさに身震いしたことを覚えています。

それから約二十年、捜査課に配属されてから現在に至るまで、ずっと捜査業務に携わり、多くの乱用者、密売人を検挙してきました。

例えば来日イラン人の薬物密売グループを壊滅したことがありました。このときには数ヶ月にわたって、昼夜を問わず張り込みを続け、組織の全貌を明らかにすることができ、リーダーを含む十数名の密売人を一斉検挙し、大量の薬物を押収することが出来、その周辺一帯では外国人密売人の出没がなくなりました。地域住民の方から「夜、出歩くのが怖くなくなった。」と感謝されたときには、努力が報われたような気持ちになりました。

また、俳優としても活躍していた歌手、演劇公演のために訪れていた大阪で



検挙した若手俳優、エッセイなどで有名な作家など、薬物に溺れていた芸能人を検挙したこともあります。過去には来日中の世界的なミュージシャンを検挙した先輩もいました。芸能人等の有名人の事件は、検挙にいたるまでの地道な努力は同じなのですが、大きく報道されますから「違法な薬物をやると捕まるんだ」ということが広く世間に知らしめられることとなり、周知効果は大きなものがあります…。で、今捜査している芸能人がいるのか…それは秘密です。

色々な事件を捜査してきましたが、変わらないことは「薬物乱用は許さない」と言う信念です。薬物を撲滅することは、一朝一夕にできることではなく、非常に困難なことですが、我々麻薬取締官は季節や時間を問わず職務遂行に励み、少しでも多くの人々を薬物乱用の道から救い出そうと日々努力し続けています。



「憧れのマトリになって」

関東信越厚生局麻薬取締部 麻薬取締官
A.R.

平成15年、関東信越厚生局麻薬取締部採用
特別捜査課にて麻薬取締捜査に従事。

「麻取だ!ガサだ!」
ブラウン管に映し出された捜索現場に釘付けになった私は、当時まだ高校生でした。社会に蔓延する違法薬物、そして、それを密売する犯罪者に敢然と立ち向かう麻薬取締官の姿に憧れ続けた私は、国家公務員Ⅱ種試験に合格し、平成十五年、大学卒業と同時に麻薬取締部に採用されました。

採用されて初めて知ったのですが、薬物捜査の大部分は、被疑者や関係者に捜査を察知されないように、秘密裏に進められるものです。それこそ、車内に丸一日閉じこもって、被疑者の行動を監視することもあり、チームで交代しながらとはいえ、それが何ヶ月にも及ぶこともあります。

また、薬物犯罪者を取り巻く状況は、刻々と変化していくので、「これから、〇〇が覚せい剤の取引をする」という情報をひとたび入手すれば、何時であろうと現場に駆けつけなければなりません。実際に、取引情報を入手して、急遽裁判所で令状を取得し、再び現場まで戻り、真夜中に密売人を逮捕したこともありました。

このように我々の仕事は、精神的、肉体的に大変な事が多いのは確かですが、捜査が実り、密売人を逮捕し違法薬物流出を阻止できたとき(特に巧妙なやり方で密売していた者を、その

裏をかくやり方で検挙できたとき)や、過去に逮捕した乱用者が、刑期を終えてシャバに戻ってからは、真面目に働いていると耳にしたときは、それまでの苦勞を全て忘れさせてくれるほどの喜びがあり、新たな活力が湧いてきます。この喜びはこの仕事でしか味わえない格別なものだと断言できます。

これからもそんな苦勞と喜びを繰り返しながら、よりよい麻薬取締官を目指して、頑張っていこうと思っています。

麻薬取締官は皆、薬物犯罪撲滅という同じ目標を目指している仲間、仲良く仕事をしています。

少しでも我々の仕事に興味を持ったそこの君!君も我々の仲間として同じ夢を追いかけませんか?

